

特定非営利活動法人



http://nepai-mika.jp mika@ssr.co.jp

ネパール・ミカの会

平成 19 年 1 月 20 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



一年の計は元旦にあり

NPO 法人ネパール・ミカの会 理事長 齋藤 謹也

いい古された言葉ですが、六十代はじめての元旦の計を立 てなければいけないなと思いつつ、お寺の正月は忙しいのです。

一日は、夜中より参拝者があり、そして元旦座禅会六時から。 正午からは檀信徒般若会と新年会。夕刻まで飲みつかれ、二日 からは新年のご挨拶に多くの方が見えられる。ついつい、計は 立てぬまま、正月さんをすごして、計をあいまいなままにして しまう。

やはり今年も「であいを大切に」、「初心わすれず」「一日一 日ていねいにすごしていこう」に、おちついてしまうようだ。 ことしもよろしく、そして、実行できることをひとつずつやっ ていきましょう。





「時は流れて」

副理事長 今村 旭

昨秋で古希となり、70歳となる。

ちょっと覗きに立ち寄り、活動を始めたばかりのミカの会に 触れ、とうとう入会してしまったあの時以来、あれよ、あれ よの10年間です。その間、楽しき良き仲間に恵まれて、ネパー ルに親しみ、ヒマラヤも観られたし、学校は次々建つし、ル ンビニの「子ども運動会」まで大成功を収めた。国内活動で の日常はバザーで奮闘し、焼きそばの作り方も上達し、在庫 商品の管理に青くなりながらも、バザー出動の常連婦人部隊 の努力で資金調達も細々ながら黒字を維持している。10年間 も運営が円滑にできたのも日常活動に積極的に参加してくだ さる会員のお陰でどなたも多彩な能力の持ち主だ。これらの 人々の結束あらばこそだ。これからの会の明るい展望の礎で す。大切にしましょう。

煙と一緒に酸素をたくさん吸い込むせいか、なぜか、当会 のタバコ喫いの会員は特に有能な人たちだ。喫わない我々も アルコールはちょっぴりやる。あと10年、兎に角、皆健康で、 元気に活動できたら嬉しい事です。私はその時80歳。めでた し。いけるかな?さてさて、この先、どうでしょう。

ネパールのたくさんの神々に嫌われないようにこれからも、 精一杯がんばろう!

新年にあたり

副理事長 坂 育夫

十年の一区切りをすませ、新しい門出の年を迎えました。 おめでとうございます。

十年と言えば、最初にルンビニでノートを配った子供達が、 すでに何人もお母さんやお父さんになっているはずです。 あらためてその時間の早さに驚いています。

ネパールの国際情況も良くなっているようですが、私の職 場を取り巻く環境はずいぶんひどくなっています。悪政に耐 えたネパールの人に負けないように、私もがんばらねばと新 しい年に思っています。本年も宜しく。

若い人達の国際協力

事務局長大谷 安宏

10年間の地道な支援活動に加えて、2003年NPO法 人取得以降、会に対する周囲からの信頼の高まりは確かに上 がってきているように思える。団体、企業、個人からの支援 を受ける機会は継続して増加している。また、近隣の教育機関、 団体からの支援活動の報告要請も多く、特に若い年代層に対す る報告の機会を持つことの意義は大きいように思う。中学生、 高校生らにネパールの概要、支援先の実情や支援活動の内容 説明を知ることで、自分も何かしたい、何か協力できないか という意識から、会のバザー会場を訪れて協力したり、激励 してくれたりする。学校の文化祭にブースを開設し、民芸品 の販売や募金活動に積極的に協力してくれる。このことが国 際協力、国際理解のきっかけとなる一助となればと思う。

ネパール大使館へ10周年記念式典案内状送付をきっかけ に、支援に対する問合せの相談を受けて欲しい旨の要請があっ た。その後、数件の問合せ連絡があった。石川県の小学校教 員の女性から支援のあり方について現地入りして実情調査の ため会の活動情報の要請があった。10月加藤さんとの中間 調査の折に日本語学校で会うことが出来た。数ヶ月滞在して 各地を視察するとのことで、パドゥマ・カニヤ校への紹介と ルンビニ運動会への参加も要請していた。現在も現地に滞在 して視察を続けている。帰国後の調査報告を聞く機会が出来 ればと思う。

また、横浜市の新羽中学の生徒がネパールに雨傘を送る活 動を進めており、送付方法の問合せに、50本を支援の旅に 持参することとし、パドゥマ・カニヤ校の生徒50名に主旨 説明とともに切手を添えて文通の要請をしてきている。若い 年代同士の国際交流のきっかけを期待できそうだ。

10年間の会の活動記録がCDや写真に整備されており、 教育現場での報告活動も容易になっている。会の活動を通じ て若い年代への報告講演活動により国際交流のきっかけとな ればと思う。多くの会員の積極的な参画を期待したい。

昨年2006年9月、私はネパール、グルワニマイ村に住む人々の暮らしを調べるため、グルワニマイ村を訪問しました。グルワニマイ村にはミカの会が支援するグルワニマイ小学校がある村でもあります。会報の紙面をお借りしてその時の模様を数回に分けてご報告したいと思います。

今回私がグルワニマイ村を訪問し村の暮らしや人々の生活についていろいろな話を村人から聞くことができたのは、多忙極まるスケジュールの中、快く調査に同行してくれたラマ氏の協力を初めミカの会の後押し、そして何より10年に渡るミカの会の活動により築き上げられた村や村人との「信頼」があったからこそ成しえる事ができました。ここに改めてミカの会の活動に関わってきた全ての人に感謝申し上げます。

第1話 9月23~24日「いざ、グルワニマイ村へ」 私とラマ氏は9月23日の夜行バスでカトマンズを出発しバイラワへ向かうことにしました。出発日に向けてとにかく体調を崩さないようにするとともに、予想もつかない現地での調査に向けて色々な準備をしました。特に用意した持ち物は、停電の時のためのろうそく、虫さされ用の塗り薬、蚊取り線香、バスが立ち往生してしまったときのためにビスケットなどの非常食など。村では村人へのインタビュー、そして子供の学校での様子などを見せてもらうおうと考えていたため、村の人とのスムーズなコミュニケーションのために役立ちそうなインスタントカメラやスケッチブック、記録のためにデジタルカメラ、ビデオカメラや三脚などを用意しました。

23日の夜、ラマ氏とヴァイシャリホテルのロビーで待ち合 わせし、当分食べられなくなるであろうちょっと豪華なダル バートの夕食を取りました。その後徒歩でバスパークへ向かい ました。バスパークはタメルから歩いて20分ほどのところに あります。バスパークまで歩く間、すでに辺りは真っ暗で足下 が殆ど見えません。リングロードといえども街灯はなく、すた すたと歩くラマさんに必死で食らいつく。ラマさん、あなたに はなぜ足下が見えるのですか? バス停に着いたのは出発15 分ほど前。ダサインに伴う帰郷シーズンなので、バス停はすご い混雑だろうと思っていましたが、ところが・・・バス停は予 想に反して閑散としていました。チケット売り場もバスターミ ナルにも、数えられる程の人しかおらず、女性は辺りを見回す 限り私1人。オレンジ色のライトに照らされたバスも心なしか 寂しげ。ダサインも間近で帰郷シーズンが始まっているはずな のに。どうやら、ハイウェイバンダの噂があったらしく、その ためバスは閑散としていたようだ。

私はネパールではなるべくネパールの人の生活を体験、実践することにしている。ネパールではネパール料理をできるだけ食べる、ネパールの衣装を身につける、ネパールの人が聴く音楽を聴く、ネパールの人が買う場所で買い物をする。そうすることで少しでもネパールの人々の暮らしを理解したいと思うからです。しかし、夜行バスでバイラワへ向かうこと、これは我ながら無謀だった・・。予想通りバスはぼろく、乗り心地はお世辞にも快適とは言えず、特に身体の大きなラマさんに座席は窮屈そうで悪いことをしてしまった・・と反省。しかし乗ってしまった以上あとはバスが無事に着く事を祈るばかり。

そして、このおんぼろの車のどこにそんな力があるのかと思うほどバスはいくつもの上り坂、下り坂をぐんぐん進んでいく。 窮屈そうな姿勢ではあるが、ラマさんはしっかりぐっすり眠っている。私は真っ暗な闇の中に広がっているであろう谷を想像し、そして自分はその谷の上を猛スピードで進むバスに乗っているのだと考えるとなかなか熟睡とはいかない。バスが山道を走ること 2 時間、急にバスが止まる。休憩か?いや、そうではなかった。 どうやらガソリンが無くなってしまったらしい。勿論ここは山の中、ガソリンスタンドなどありはしない。バスの運転手は対向車を何台か止め、ガソリンを譲ってもらえないか交渉している様子。しかし、すげなく断られている。結局、運転手とその助手は小雨降りしきる中、青いポリタンクを持って一番近くのガソリンスタンドまでガソリンを買いに行くという。ラマさんも隣であきれ顔だ。

そして乗客は暗い闇夜に置き去りにされた。聞こえるのは 鈴虫のような虫の鳴き声と絶え間なく降り続く雨の音だけだ。 待つこと1時間、青いポリタンクを引き下げて運転手が戻っ て来た。一件落着、さて出発かと一安心したのもつかの間、 一難去ってまた一難とはまさにこのこと。スピーカーから大 音量でインド音楽が・・・。スピーカーが壊れていて音が止 まらないらしい。これにはラマさんも参ったらしく、スピー カーと格闘し力ずくで音量を下げた。なんとか我慢出来る音 量の中、再びバスは走り始めた。そろそろ身体も限界に近づ いた頃、夜が明け始めた。カーテンを明けて、外を見る。

制服を身にまとい自転車二人乗りで学校へ向かう子供達、野菜を自転車にくくりつけてペダルを懸命にこいで町へ向かう男、お供えものを手にしたご婦人を乗せたリキシャー、道路沿いの庭でお茶を飲む老人、井戸で水浴びする少年など夜が明けたばかりだというのにもうこの村の人々の一日は始まっていた。バスはもうブトワルの近くまで来ていた。そしていよいよブトワルに到着、多くの乗客が下車しバスにはラマさんと私を含めた数人が残った。そしてバスは数人だけを乗せてバイラワへと向かう・・・。ところが道の途中でバスが止まった。そしてバスから降りるように告げられ、地元の人々で込み合うローカルバスへ誘導され、乗り換えた。大きなバスで数人が移動するガソリン代よりも乗客数人のローカルバス代金を負担したほうがそのコストははるかに安



9月24日AM7時半、ようやくバイラワに到着。思っていたよりも気温は低く、快適。ところがこの快適は長く続かなかった。その後、雨が降り、その後日を追うごとに徐々に気温は上昇し、気温の上昇とともに湿度もあがり、そして虫(蚊、イナゴのような虫、羽虫)も爆発的に増えていくことになる。

バイラワの町に車はほとんどなく、リキシャーが主要な交通手段である。そのとなりには我が物顔で道路を闊歩する牛、道路に寝そべる牛達がいる。しかし、毎日(早朝)市の職員が牛の落し物や紙ごみ、生ごみの掃き掃除をしているらしく、道路はとても綺麗だった。

そして、私とラマ氏は疲れた身体に鞭打ってバイラワの街を一周し、良さそうなゲストハウスを探す。まだゲストハウスが開いていないのでその間に朝食をとることにした。インド式朝ごはん(揚げパン、カレー、油で揚げた甘いお菓子)を食べチャイを飲みながらゲストハウスが開くのを待つ。ゲストハウスが開いたようなので早速部屋を見せてもらう。バンクロード沿いのゲストハウスで道路に面した2階の部屋。

トイレとシャワールームが一緒になった水場はあまり清潔とは言えないものの、道路に面した部屋の壁は一面ガラス窓でとても明るく、風も通る。天井についたファンもちゃんと動く。(ただし風量最大のままで調節できなかったが・・・。)店主の言い値250Rsを200Rsにまけてもらう。荷物を下ろし、ビデオカメラなど機材だけを持ちそのまま村へ向かう。リキシャでルンビニ行きのバス停に行き、そこからローカルバスでグルワニマイへと向かう。バスは耳をつんざくようなクラクションを絶え間なく鳴らし、暴れ馬のように道路を駆け抜ける。クラクションはうるさいが、壊れた窓から入る風が心地よい。Tシャツとズボンの日本人女性とネパール人の組み合わせが珍しいのか、前後左右から視線を感じる。私は「よそ者」なのだということを実感する。



グルワニマイ村はバイラワからルンビニへ向かう道の途中にある。バイラワの北にあるバスパークからルンビニまでは22km、グルワニマイ村はその中間、ルンビニまで11kmのところに位置する。

道路を挟んで村の反対側にいくつか工場があり、そして工場を取り囲むように田んぼが広がっている。工場は菜種油、小麦粉、セメント、プラスチック、板の加工などの工場などである。そして道路から見える田んぼはパッチワークのようである、大きさや形、そして何より色が違う。この色の違いはつまり、稲の成長(段階)の違いであろう。稲穂がたわわに実り隙間なくびっしり育っているため薄茶色に見える田んぼもあれば、稲穂はあるがスカスカで所々緑が見え隠れする田んぼ、そして稲穂がまったくついていない緑の田んぼ。道路からみれば一見緑が広がる豊かな土地に見える。

そしていよいよグルワニマイ村の入り口に到着。道路に立ち、ぐるりと周りを見渡す。道路沿いに、赤や青、金色などカラフルな布で飾り付けてた小屋が目についた。ラマさんと小屋のところまで歩いてみる。ダサイン祭りのための特設小屋だった。小屋の中はさらに色々な色で飾り付けられており、小屋の一番奥にはダサイン祭りのためのドゥルガー神の像が飾られていた。ドゥルガー神の前には祭壇のようなものが作られており、花や水などさまざまなものが供えられていた。そしてその祭壇の前には白い服を身にまとった老人が大きな声でお経のようなものを音読していた。何日間にも渡るダサイン祭りではドゥルガーの像を作ったり、食べ物を村人に振舞ったり、祭司を呼んだりするそうだ。そのために約8千ルピーもかかるので、そのお金は村人から集めるという。そしてダサイン祭りの9日目、悪霊を流すという意味を込めてドゥルガー神の像を川に流すのだそうです。

私たちは小屋を後にし、早速村へ向かう。グルワニマイ村は大きく2つに分かれている。村の中心にある二つの沼とお寺を挟んで道路側が新しい村、奥が古い村。村の中の道をさらに進むと川幅20メートル以上はある大きな河がある。

私とラマ氏はまずグルワニマイ小学校に向かう。ラマ氏と私は校長先生に会い、職員室で自己紹介と今回の訪問の目的を話した。今回は残念ながらダサイン祭りのため学校は15日間お休みで学校の様子を見ることができないが、村人の生活を知るため何家族かにインタビューしたいとお願いした。校長は快く了解してくださり、村に住む52、3家族の中から生活レベルの違う7家族を紹介してくれることになった。雨の降る中、校長先生の先導で村を案内してもらいつつ、またインタビューを受けてくれる家族一軒一軒に私たちを紹介してくれた。初めのうちは場所を覚えていたが、3件目あたりから方向と場所の感覚がなくなり、ラマさんも私も「あれ?さっきはどの家だったっけ?」と顔を見合わせて苦笑い。

どうしようかと思っていたら一緒に後ろをついてきていた一人の少年が明日以降のインタビューの道案内を買って出てくれて、あぁ一安心。一通り村を案内してもらったところで、校長先生の家へ招待されました。家族の話を聞くうちに牛乳をもてなされた。とれたての水牛のミルク。おもてなしを断るにもいかず、しかし不安も。ラマさんもまぁ、火を通してあるというから大丈夫でしょうと小さな太鼓判を押してくれたので私は思い切って「ゴクリ」と飲み干した。思ったよりサラサラとしていて、水で薄めたような感じ。牛乳の味よりも燻製のような燻された味がした。普段はこの牛乳を煮立て、ヨーグルトにして町に売りに行くとのこと。貴重な現金収入となる牛乳をいただいたことに感謝したい。

店主はこの村の人達の為にと、かかって来た電話について は自由に(無料で)村人に開放しているとのこと。この店の 電話は村の人々にとってとても大きな意味を持っていると思 う。そして、この電話屋の店主も後日インタビューを受けて くれました。また、村の中心にはクリーム色のコンクリート 製の建物がある。この建物はイスラム教の寺院らしい。どこ かからの寄付によりこの村に建てられたということだが、こ の村の人達はこの寺院には行かないとのこと。次に、同じく 村の中心辺りにあるヒンズー教のマンディール(お寺)を案 内してくれた。寺院といっても、ドアもない小さな小屋で、 中に石があり、祀られている。神像があるわけではないが、 確かに入り口の上部にはスヴァ・シバ・マンディール(聖な るシヴァ寺院)と書かれており、石には米や花、色粉などが かけられていて確かに信仰の対象となっている。そのとなり には煉瓦で作られた井戸がある。近くの木に結びつけられた ロープが井戸の中まで続き、そのロープの先には銀色のバケ ツがつながれている。今は一つの家に一つの井戸があるので この井戸は使われていないとのこと。中をのぞくと深さ5メー トルほどの所に水があることが確認できた。煉瓦の周りに草 が茂っており、やはりこの井戸が現在使われていないようだ。 校長によれば現在、各家にはポンプ式の井戸はあるが、その ほとんどは浅く飲み水に適したいい水ではないとのこと。



今回の訪問を通じて、気になったことの一つがこの「水」である。この村は一軒に一つの井戸があり、学校にも井戸がありと確かに生活水には恵まれているようだ。しかし、その水の汚染が気になる。まず、生活排水(下水)が整備されていないため生活排水は垂れ流し。その生活排水は井戸の周囲で再び地下に浸透し、土壌や地下水を汚染していること、また家畜と人が住む場所が一緒であり、そのため家畜の糞尿が家周囲の土壌や地下水を汚染していること、さらには村の殆どの家にはトイレが無いことから人糞による土壌、水の汚染が考えられる。実際、家の中で家畜を飼っている家が多く、そのような家ではハエがとにかく多かった。

インタビューの間も飛び交うハエは数十匹以上、隣の部屋で眠る幼子の顔にもハエが数十匹。慣れてしまえば・・・・とはいえ、生活環境はあまりにも劣悪である。バイラワの風呂場のヨゴレなど比べものにならない。この村の人はなんと強いことか。8月の10周年記念式典でラマ氏が言っていた、「村の人達には生きる力がある」ということがどういうことなのか。村を訪問し、自分の目で見、実感し、ほんの少しわかった気がしました。

さて、「次回は牛と農作物」について書こうと思います。どうかお楽しみに・・・。



ネパール東部インドのダージリン地方と接するイラムの茶畑 殆どが経営をインドの会社に委託し、作業員としてネパール の人々が働いているそうだ。ここにも貧困の原因がありそう だ。詳細は次号会報にて報告致します。

橋本高校国際理解講座から文化祭へ

佐藤 富美子

昨年2006年6月19日、青沼さん、大谷さん、中野さんとともに橋本高校の国際理解講座でネパールの教育事情やミカの会の活動について紹介しました。その授業後の生徒達との会話から9月の文化祭で国際交流委員会の生徒達がミカの会活動の紹介と民芸品の委託販売をしてくれることになりました。早速一ヶ月後の7月13日、橋本高校で文化祭に向けての打ち合わせがありました。

打ち合わせには会から大谷さん、和田さん、私の3名が参加しました。橋本高校は担当の松下先生、国際交流委員会の生徒達が参加しました。授業の時とは違い、生徒達はリラックスした表情。生徒達から民芸品の販売と写真の展示を行いたいと希望があらためて出されました。

文化祭は9月15,16の二日間で、前日の14日が準備日。その二日間で販売した売上をミカの会に寄付したいとのこと。生徒達との話し合いでその売上を新しく建設するグルワニマイの図書館の図書支援費に充てることになりました。ありがたい申し出にミカの会も全面協力することになりました。しかし民芸品の委託販売は会としても初めての試みです。期待半分、不安半分といったところ。文化祭初日の15日は校内だけでの販売で、次の日の16日は一般にも開放し販売となるとのこと。学生向けなのでアクセサリーや小物など、出来れば300円以下の品物を多く用意してほしい、また展示のための写真も貸して欲しいということでした。

ミカの会からは300円以下の小物中心の民芸品、ルンビニの写真、飾り付けの為のタルチョやネパール音楽のCD,ネパールの衣装などを用意し前日に搬入することにしました。 いよいよ9月14日、大谷さん、和田さんとともに橋本高校に荷物を搬入しました。生徒達はすでにレイアウトを考えていたようで、搬入した荷物を何人かのグループに分かれて手際よく飾り付けていきました。教室の正面の黒板一面にカラフルな絵と文字で「ネパールがぎっしり!」と可愛らしく書かれていて、他にも宣伝に使う「ネパールがぎっしり!」と書かれたチラシがすでに用意されていました。タルチョを飾り付け、写真を教室の構と後ろに所狭しと並べ、民芸品に値札を付け、それを教室の中心に口の字に並べた机の上に並べ・・・とあっという間に準備が進んでいきました。

教室の隅で、和田さんと私は生徒達にネパール衣装の着付け を教えました。慣れない手でサリーの布と格闘する生徒達は 楽しそうで生き生きしていました。準備は万端に見えました が、念のため15日の午前中様子を見に行くことにしました。

前日は雨のため当日の朝から準備を始めたところもあり、 校内は混乱していて文化祭が始まっているようには見えませんでした。民芸品を販売する教室は3階の奥、場所も恵まれているとは言えず、文化祭独特のワイワイした雰囲気からは取り残されているように見えました・・。しかし生徒達はポツリポツリと訪れるお客さん相手に一生懸命民芸品とネパールのことをアピールしてくれていました。あとは生徒達にまかせようと早々と教室をあとにしました。売上はどうだったんだろう、生徒達は楽しんでくれただろうかと思いつつ、私は17日早朝ネパールに旅立ちました。

そして、ネパールから帰国した後、二日間で売上が5万円近くもあったこと、その他保護者の方が沢山買ってくださったこと、この高校の男子生徒が一円玉、五円玉をこつこつ貯めた貯金箱をまるごと寄付してくれたことなど、様々なエピソードを聞くことができました。

この文化祭の収益は民芸品と寄付を合わせて¥56,095 もありました。予想を遙かに超えた金額にとても驚きました。 多くの人が民芸品を買ってくれました。それは、写真を見て、 会の活動を知って、ネパールの子供達に・・という気持ちで買っ てくれたのかもしれないし、ただ民芸品に惹かれて買ったの かもしれません。でもそのつなぎ役をしてくれたのは彼女達 1人1人なのです。この金額の裏にある生徒達1人1人の頑 張りと想いに心から尊敬と感謝の気持ちを贈りたい。ありが とう。

そして、国際交流委員会の生徒達に願うこと。国際協力の ゴールは遠く時間もかかる。使命感や理想ばかり追い求めて いると続かない。何より楽しむ心を忘れないで欲しい。と思う。 文化祭の売上金は生徒達との約束通りグルワニマイの図書館 の図書支援費のために使う予定です。いつか生徒達が大人に なった時、現地を訪れ、ぜひ自分の目で見てもらいたいと思 います

国際交流委員会の生徒達が卒業する前に、10周年記念で行った運動会の様子、ルンビニの様子を報告する約束がまだ残っている。

青沼義信

町田大道芸は平成八年に第一回から始まり今年は十一回を迎えました。私の店舗は都市再開発道路の用地内であった為平成十年に移転し第三回目からの参加でありました。

当初は店舗を構えていた為、出店と当日警備の手伝いを行う 程度でありました。その当時の深い思い出があります。平成 十二年だったと思いますが、東急広場へ店の商品(子供用リー ボックとナイキ中心)を出品していたら、お年寄りのおばあさ んが話しかけてきました。「あらこの袋のお店は今の近畿日本 ツーリストのあたりにあったお店ではないですか?道路にかか りお店が無くなってしまい、今は露天商を始めたのですか。お 気の毒なので、孫に買ってゆきましょう。」と言って靴を四足 購入されました。それを含めて当日売上は二十数万円売れたより 記憶しています。それが現実となり平成十五年諸事情により 八十五年続いた店を三代目の私が閉店させてしまいました。移 転をした時から閉店までの間商店会会長はじめ役員の皆さんに は大変お世話になりましたので、引き続き商店会活動を以前以 上にお手伝いすることにしました。

当初パークアベニュー商店会のみのイベントでしたが、平成十四年には、ぽっぽ町田がある四丁目商店会も加わり平成十五年は幸町商店会とターミナルロード商店会が参加し四商店会合同開催となり、点から線そして面への範囲に広がって行きました。翌年の平成十六年はターミナルロード商店会が抜け三商店会となりましたが、会計等諸々の企画は各会独自で行い役所への補助金申請や報告書提出なども独自で行い、本年度からは幹事商店会を決め統一した事務処理を行い始めましたが、三つの組織が一緒に事業を行うことに大変な戸惑いを感じました。地域間・人間関係・組織力の違いなど毎回の会議では纏まらず、オマケに九月にはもっと大きな組織団体が行う「フェスタまちだ」というエイサー祭が行われる為ほとんどの役員はそちらの方へゆき大道芸は私を含め三名での行動となってしまいました。

昨年と引き続きミカの会にはバザーに出店していただき、今年は併せてネパールソンギートに親しむ会にネパール舞踊の出演をお願いしパークアベニュー会場はいつもと違ったネパールの雰囲気が出ていました。他にも私一存で出演者を決めつけ今までに無い出演者の数となりました。いつもと違い今年は両日晴天に恵まれ大変な人出で。フィナーレの企画でパフォーマー全員によるエンディングショーを行い、それを盛り上げるサプライズプログラムで花火効果を行いましたが、最後が失敗し逆転サヨナラ満塁ホームランを打たれて負けた感じがしました。反省会の席ではこのことが出るかと思いましたが、何も出ませんでしたが、一点指されてしまいました。それは私が役員になってから役員用の食券の発行が非常に増え昨年今年は倍になり、職権(食券)乱用と指摘を受けてしまいました(笑)。



加藤副理事長と大谷事務局長の中間調査の際調査された10周年記念ルンビニ地区スポーツフェスティバル必要品についての詳細リストを基に調達方法を検討していましたが、中でも支援8小学校全員2000人以上に贈る賞品のノートと鉛筆の調達について、数が多いだけにノートの調達は現地ですることにしましたが、鉛筆については日本製に勝るものは無いので是非日本製をとの要望から、国内で2000~3000本の鉛筆を調達し、支援の旅の際持参することになりました。

その時点で淵野辺東小学校と橋本高校の生徒さんたちが学校で集め寄贈してくれた未使用・使用の鉛筆が数百本ありましたが、とても間に合う数字ではありません。

今から手分けして集めようかとの案もありましたが、間に合うかどうか不安がありましたので、なんとか出来るだけ安く手に入れる方法はないかと思案していたところ、以前、会社で物品調達していた当時のことを思い出し、駄目元で鉛筆メーカーへ直接電話してみようと思いたちました。

大手鉛筆メーカーで思い浮かんだのは三菱鉛筆㈱とトンボ鉛 筆㈱で、取敢えず両社のホームページを見たところ、会社規模 としては三菱鉛筆が大きいのですが、トンボ鉛筆には「トンボ の住める街にしよう」を標語にして環境に対する理念と方針が 具体的に示されており、自然保護活動に身を置いていた者とし ては直ちにトンボ鉛筆を選んでいました。

早速トンボ鉛筆本社に電話し、ミカの会の活動内容と鉛筆の必要な理由を説明し、日本製鉛筆3000本を出来るだけ安く調達したいことを話したところ、海外営業部の担当者が理解を示され、早速社内調査し3000~3200本単位で、多少印字ずれや傷があるもので1本5円(通常製品なら1本40円位のもの)なら分けてもらえることになり、会の承認を得て早速手配してもらいました。

その後トンボ鉛筆から3000本×5円=15000円の請求書が到着、15000円を振り込んだ5日後、思いもかけぬ3200本入りのケースが2個(6400本)も届き、誤配ではないかと心配になり担当者に問い合わせたところ、「ミカの会の活動に賛同したので、今回余っても今後の活動に役立ててもらいたいと思い余分に送らせてもらいました」との有難いお話で誤配ではない事を確認したのですが、担当者とは電話だけの遺り取りだけだっただけに信じられない思いで、思わず目頭が熱くなってしまいました。

現地持参はテニスボールを始めとした荷物が多いことから、鉛筆は1人300本づつ持参し取敢えず間に合うだけの2700本を持って行く事が出来、8小学校生徒全員はもとより、2中学校・1高校生徒全員にまで配布することが出来、非常に有難く思っております。

支援の旅から帰国後、大谷事務局長同道でトンボ鉛筆にお礼の挨拶に行って来ましたが、トンボ鉛筆担当者もミカの会のホームページを見ており、活動内容をよく理解しておられこれがスムーズな支援に結び付いたようで、ホームページの大切さを改めて認識しました。

残余鉛筆は、次回以降の支援の旅で有効に配布してもらいたい と思っているところです。

第10次ネパール教育支援の旅

大谷 安宏

期 間:11月16日(木)~11月27日(月) 12日間 参加者: 齋藤謹也 青沼義信 大石トキ 山下繁憲 中野千恵子 濱崎ヤスエ 加藤雅子 和田泰子(現地 合流) 榎本真幸 榎本志保子 大谷安宏

目 的:ネパール・ミカの会創立10周年記念ルンビ二地区 スポーツフェスティバルの開催、カトマンドゥ日本語 学院創立41周年記念式典参加、チャングナラヤンミ ニハイキング、グルワニマイ小図書館建設計画確認、 パドゥマ・カニヤ校パソコン寄贈式、新羽中学校雨傘 / 文通要請、日ネ国交樹立50周年記念Japan in Nepal鑑賞

日 程:

11月16日(木) ロイヤル・ベンジャH 町田~(バス)~成田空港 大石、中野、山下合流 成田~バンコク空港~ホテル着 韓国料理夕食

11月17日(金) Hバァイシャリ バンコク〜カトマンドゥ ラマ、モティ、スリジャナ、 和田出迎 ホテル着 買い物 Tシャツ注文 スポーツ フェスタ準備作業 ラマ氏打合せ ネパール料理/サムンドラタ食

11月18日(土) Hバァイシャリスワヤンプナート見学 残り組スポーツフェスタ準備作業カトマンドゥ日本語学院41周年記念式典/懇親会於:ラディソンH



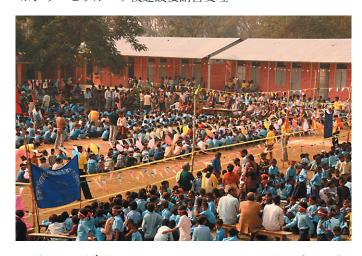
11月19日(日) Hカントリービラ カトマンドゥ日本語学院弁論大会参加 カトマンドゥ~ナガルコット 散策

11月20日(月) Hバァイシャリ ホテル~(バス)~ミニハイク~(古都弁当)~チャングナ ラ ヤン~(バス)~ホテル 買い物 桃太郎夕食

1 1月21日(火) Hニルワナカトマンドゥ〜 (Air) 〜バイラワ〜ホテルスポーツフェスタ物資調達 ヤナトラハ校庭視察 物資調達 ※11年間紛争 政府とM停戦合意 王室対応 武器保管兵士年齢 22日全国一斉休日

11月22日(水) Hニルワナ スポーツフェスタ準備組 プラカード、ハチマキ 賞状、旗作り他 会場レイアウト組 物資調達 石灰他 会場レイアウト

11月23日(木) 法華H 会場準備 トラック 区割り 飾付 音響設備 送迎バス 昼食 法華日むすび弁 式典・スポーツフェスタ 開会宣言 理事長挨拶 校長代表挨拶 生徒代表挨拶 選手宣誓 競技 ラジオ体操 玉入れ 綱引き 徒競走表彰式 賞状 鉛筆 ノート 記念掛時計 サッカーボール 後片付け ※シリ・ビラルハワ校建設要請書受理



11月24日(金) Hバァイシャリ 朝食前ルンビニ公園観光 マヒナワリ民芸村視察 グルワニ マイ小学校図書館建設用地視察 バイラワ〜 (Air) 〜カトマンドゥパドゥマ・カニヤ女子校 パソコン寄贈式 新羽中学雨傘 文通要請他 切手支給 ボダナート観光・買い物 串藤昼食 サンセットビュー夕食

11月25日(土)Hバァイシャリ王宮広場観光買い物Japan in Nepal鑑賞買い物 古都夕食会

11月26日(日) カトマンドゥ日本語学院 CD/テープデッキ5台 寄贈式 カトマンドゥ南部からヒマラヤ観光〜空港 ラマ、スリジャナ見送り 中野誕生祝い

11月27日(月) ~バンコク~成田空港 解散 成田空港~(バス)~町田



神々の山へ

和田 寧人

ネパールに来ると、ここは地球の創世記に周りを海に囲まれたインド亜大陸の一部であり、インド亜大陸の衝突によって、ユーラシア大陸との間にあったテチス海は遠くチベットへと運ばれてしまっていて、これに続くプレートの沈み込みによりヒマラヤは隆起したのであり現在も上昇が続いている事に、地球のいや宇宙のスケールの大きさに驚きを感じてやまない。

今年初めて、ネパールヘトレッキングに出掛けた。高い所といっても日本アルプスの3000mで泊った経験しかなく、どの程度高山に耐えられるのか知りたかった。また大石一馬の写真で見る厳しい山々の一部でもこの目で見たいものと願ってきたことが叶った。

歩いたのは 大石一馬が登山隊で登頂を目指したランタン・リルンを見るためカトマンドゥ→ドンチェ→ゴザインクンド→スンダリジャル→カトマンドゥと一周してきた。限られた日程の中、高所順応が駄目なら引き返せばよいとの気軽な考えで行ったのだが、なんとか無事に歩き通せた。

しかし、3900mのラウレビナヤクのチベット人が経営するロッジで、調子がいいからと図に乗ってウイスキーを飲んで寝た。ところが、夜中に酸素欠乏の為か欠伸が止まらなくなり苦しくてシュラフの中ゴロゴロとのたうち回ってしまった。それでも翌朝には、真っ白に霜のおりた斜面に遠く、ピンク色の朝焼けを背景にしてマナスルが見え、ガネッシュヒマールの塊、はるか下の山を這うベールの如き層雲、そして朝日が当たりはじめたランタン・リルンのどっしりとした山塊が眼の前に観られ感激し、前夜の苦しさはすっかり忘れてしまっていた。

ハプニングがもう一つ、素晴らしい朝焼けを撮ろうとした寒気の中でカメラが作動せず、ビックリし小屋へ、しばし時間を置き且つバッテリーを新品に交換した結果何とか動き始めた。その時は既に遅しで最高のチャンスは過ぎてしまっていた。カメラを愛好する人たちはこんなことにならない様準備怠り無く、我慢強く瞬間のチャンスを待っているのだな…・と猿にもできる反省をしたのでした。

夏にはシヴァ神の祭りで、ヒンドゥの信者がカトマンドゥより 大挙して押し寄せるという4300mを越える高さにあるゴザインクンドは寒風の中で静かに周りの山々を鏡の如くに映していた。

この静かな湖に、破壊者と創造者の両面を持つシヴァと一緒にいる妃神は温和なパールヴァティーなのか、または恐ろしいカーリーやドゥルガーなのだろうか。

思ったほど旅人との出会いは少なかった。日本人は全く見かけず、ドイツの夫婦と途中まで前後して歩いた程度。しかし、旅の後半には色々な人たちとすれ違った。晴天の昼、のんびりと草の上で髪を染めている男女。早足で登ってきたニワトリをぶら下げたキッチンボーイ。一歩一歩急坂を喘ぐように登る若い女のポーター。パシュパティナートより空身で登ってきたはだしの修験者。チソパニではドンチェより手前、バスの途中で徴収した入山料(100Rs/1日)をチェックに来て、他国の政治に興味を抱き長々と話をしていく若いマオイスト、等々。

村に入ると、急な階段の両側に建つ家々で営まれる生活の一端が 見受けられたが、早足で通り過ぎてしまった。もっとゆっくりと 時間をかけて見て・聞いて・話して(会話が出来れば)下りてく るべきであった。旅の楽しみを逃してしまった。

ネパールの山は日本と異なり、森林限界までは生活範囲(放牧は 更に上まで)である。 トイレで難儀すること、食事で胃がまいる事はあっても、 風呂とは無縁の生活であっても、また新聞が無くても(現在 はソーラーの設備があって高いロッジでもTVがあった!) 自分にとってネパールは案外合っているとなーと感じる。何 故かと考えるとそれは時計に縛られない生活からであろうか。 しかしカトマンンドゥの変貌は良くも悪くもこれから益々激 しくなるであろう。それが何時かは地方や山へ波及する、そ の時どうなっているのか興味は尽きない。

マスコミが取りあげる嫌なことだけが記憶に残るような浮世と異なり、辛い事や苦しい事もスパット忘れてしまい又行きたくなる山行は不思議な魅力を感じるものである。しかし体力あって叶うもの、気力のみでは叶わないことを思い知らされた。日頃の鍛錬が如何に大事かが解った旅でもあった。



2006 年ネパール中間調査実施

2006.10.05~10.15 大谷 安宏 加藤 誠一

ダサイン祭をずらしての中間調査、ルンビニでの運動会の下調べ、各校長との意見交換を行う。グルワニマイ図書館建設の準備、タンセンでの図書贈呈式を行い、新たに支援依頼のあるネパール東部の紅茶の町イラムを訪問する。詳細はホームページをご覧下さい。会報では次号掲載予定です。

第9回ネパール教育支援ボウリング大会終了

10月18日100名の参加で無事大会を終了する事が出来ました。賞品の確保、参加者の募集と以前より厳しい情況になっていますが、今年は第10回となりますので新たな気持ちでチャレンジする予定です。ご協力有り難うございました。



ミカの会新年を迎え

「黒字にしたい」・・・ 秋畑 正純

なんの運動もしていない私は健康のために、1日1万歩以上歩くことを目標にしたい。

最近、万歩計をつけ手帖にデータをとり始めた。11月は1万歩以上歩いた日は、たったの8日。合計で22万5812歩。歩を円におきかえると 22万5812円。30万円が採算分岐点なので、7万4188円の赤字である。何ヶ月も赤字が続けば倒産だ。黒字経営にするのが私の今年の目標である。パソコンのエクセルにデータを入力し、 Σ キーを使えば記録は簡単にできる。今から楽しみである。赤字が続けば、バカらしくなってやめて しまうこともあり得る。今年の忘年会で皆さまにお会いしたとき、私が万歩計をつけていれば、倒産しないで、健全経営をしてきたことの証左でしょう。

「喜び」・・・ 今村 知子

ネパールの子ども達の運動会の、DVD を見て感動しました。 素晴らしい!! 子ども達がきちんと整列してプラカードに付いての入場! 懸命に玉入れする回りで玉を集めるボランティアの黄色の高校生達!全力で走る姿! ワーワーと応援する声が耳もとに聞こえてくるようです。その場で一緒に手伝いたかった。無事に終わった感動を一緒にあじわいたかった。

一年程前、大谷事務局長の"運動会をしてやりたい"の話しを何度か聞いていた。

十周年記念に、それが行われると決まり是非私も参加したい、と思いましたが、かなわず 残念! 心のすみにいつもあったこと - 何か一つに打ち 込み継続することは、素晴らしい成果を生み出し感動を他者に与えるものだなーと。

いちばん身近に、ミカの会があったのです。 十年とぎれること無く、子ども達の為にと活動した一つ、一つが大きく実って花咲いたとおもいます。 子ども達が きっと一生覚えているでしょう。日本の、ミカの会のおじさん おばさん達が来て、楽しい 心がはずむ一日をくれた。と 見に来ていた親、きょうだい 近所の人々も、学校の先生達の心にも響いたと確信します。皆様本当にご苦労様でした!

「私の1年の振り返りと来年の抱負」・・・ 篠原 功

事務局長の大谷氏から「コンサート」に誘われて今村夫妻と元気溌剌としたご高齢の(教えてください。)方をご紹介いただいたのがきっかけになり。 その後退職する機に「ボランティ」に参加してみたいとも思っていたので入会させていただいた。

「10周年記念式典」へ参加して、インパクトある異文化に触れたのを思いだします。町田市のイベントを見学者として皆様のボランティア振りを拝見また、忘年会参加して徐々に何人かの方と触れ合いさせていただきました。2007年は「ゆっくり 未体験分野へ一歩前進 チャンスは自分の手で」」をモットーに例会・行事に参加して何かのお役立ちをしたいと思っております。また、早くネパールの地に足を踏み入れてみたい気がしております。

「忘年会でのこと」・・・ 沼野 和子

今年は久々にインド料理屋での忘年会であった。お店全部を借り切ったのに、奥のほうの人はトイレにも行けないような混雑。

入場時一人一人に番号札を渡し、会も酣のころくじ引き。「それでは最高齢の沼野さんにくじを引いていただきます」と和田さんの声。「エッ」と思ったが、「そうか、私が一番年かさなんだ」と納得して立ち上がる。次々番号を読み上げ、景品を渡す。景品を受け取る皆さんの顔も嬉しそう。

こんなふうに会を進めて下さる幹事の方々、会場選びから当日の会の運営まで多くのことを黙って引き受けて下さった方々のおかげでこの楽しい会を持つことができた。有り難うございました。

今年はミカの会も発足10周年、ネパールでの活動も着々と成果を挙げつつある。これからも皆で力を合わせて活動を続けていきたいと願っている。

「学祭を振り返って」・・・ 中野 千恵子

能開大の学祭はそれぞれの学科、サークル、部活等が、部活の団体などが、学祭実行委員と一緒に参加するお祭です。

私はネパールの教育もままにならない実情、子供たちの眼がキラキラと輝いている子供達がいることを知って欲しくて、学祭委員にミカの会の事を説明し、参加の運びとなりました。

その後、毎年学祭委員メンバーが代わるので、その都度説明し、書類を提出し、参加してきました。

それ以外に私が働いている生協の学生委員の方々にも、場所の抽選、前日のテント、机、椅子の貸し出し、テントの設営を協力して頂きました。勿論 片付けもです。本当に快く手伝ってくれて、ありがたく思いました。私一人ではとても無理な事でした。当日は、丹沢の山々が見え、日当りの良い場 所で、ノンビリムード。手伝ってくれたミカの会の会員も気に入ってくれました。売り上げより参加する事を楽しんでいるようでした。

参加するごとにネパールティやハッシュドポテトのフアンも出来、学祭を待ってくれる人もいて、そのたび売り上げもダンダンのびてきました。今から思い出すと、6年前、急にアメリカへいかなければならない用事があり、留守隊にお任せした事もありました。始まりがあれば、終わりも来る事もある事は解っていましたが、最後になり、やはり寂しい事です。

今年は5月12,13日に行われる若葉まつりにミカの会員大勢の参加を希望し、取り組んでいきたいと思います。

一人、一人の力は弱いけど、皆で力を出せばいろいろな事が出来る事は解ったので、自分なりに取り組んでいこうと思っています。

ビスタリー、ビスタリーで。

【編集後記】

ミカの会 10 数年記念事業のルンビニでのスポーツフェスタが盛大に開催された事の報告を受け、そのご苦労に対し敬意を表します。行きたかったなあ!中間調査に行って打ち合わせしただけにとても心配はしていました。ミカの会のメンバーなら出来る、成功すると信じていました。中間調査の報告が紙面の関係で次号になりますのをご了解下さい。カトマンドゥから空路、陸路で5時間、イラムのキャンパス迄行って来ました。一面のお茶畑、沈む夕陽の美しさ、良い経験をさせて頂きました。イラム校は予想以上に図書などの購入に苦労しており、とても国立の大学とは思えない厳しい情況にありました。ミカの会の事業の指針に合致するかどうか?疑問も有りますが、少しでもお役に立ちたいと言う気持ちは変わりません。理事会でも図書支援を開始する事に決まりましたので、先生、学生は大いに喜んでくれると思います。この原稿を書いている日にネパール暫定憲法の制定、暫定議会が設置され、マオイストの武器解除も行われる事が決まりました。新生ネパールに期待します。。S.K